

豊庄だより



第 709 号 2022 年 5 月 25 日

まだ書くのかと思われるかもしれませんが、私の剣道部顧問時代にもう一つ忘れられないことがあります、書きます。T 中学校時代の(707号で紹介した S 君とは別の) S 君のことです。

福岡市早良区南庄 2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達

「先生、ぼく、剣道、やめたいんですけど・・・」中体連の大会を目前に控えた 7 月上旬のことでした。S 君は思いつめた様子でそう言いました。突然のことで私はびっくりしました。とにかく彼の話聞いてみることにしました。

「今年から(3年生になって)塾に行っていて、このままだと下のクラスに落ちてしまう。部活を辞めて、勉強に専念したい」というのです。

部活を辞める時、子どもたちはきまって、「このままでは勉強する時間がありません。成績も下がってきている」「辞めさせてください」と話に来ます。やめたからといって、その時間を勉強に充てるかと言えば、なかなかそうはなっていないのを、これまでの経験からみてきました。

しかし、S 君の場合はそうしたケースとはちょっと違っていました。S 君は転校生で、1年生の2学期に T 中にやってきました。前の学校でも剣道をやっていたということで、剣道部に入ってきました。お



世辞にも上手とはいえません。ところが、一生懸命に練習し次第に力をつけてきました。残念ながら新人戦(2年の秋)には、選手として出場できませんでしたが、その上達ぶりには目を見張るものがありました。そして、2年の冬、見事初段審査に合格しました。3年生になっても取り組む姿勢は変わりませんでした。

そんな S 君が退部するという・・・。「そりゃ、塾の先生は、君の成績が下がれば、“このままじゃいけないよ”と言うだろう。しかしね、塾の先生は君の生活のこと、どれくらい知っているんだろうね。君がどんな思いで剣道に燃え、苦しい練習にも耐え、そして初段に合格したことなんて、わからないんじゃないか。ここまでがんばってきたんじゃないか、最後まで頑張

れよ」と私は語りかけました。S 君はこっくりと頷いて帰って行きました。

その後、S 君は部活を辞めずに練習に来ました。どうしても来れない時は一人で黙々とランニングをして帰りました。

7 月の中旬。中体連の選手を決める時がやって来ました。成績のことを気にしながらも必死にがんばる S 君を何とか選手にと思いましたが、他の者たちも S 君同様、がんばっていました。結局、S 君は応援席から参加することになり、S 君の夏は終わりました。

あの時から数十年が経ちました。S 君とは今でも年賀状のやり取りをしています。数年前のことです。突然豊庄保育園にやってきました(現在は東京に住んでいますが、確か彼の実家は保育園の近くでした)。中学卒業以来です。彼は、高校、大学、社会人でも剣道を続け、「今度六段を受験するため、練習しています」と話してくれました(その証拠に、両腕の筋肉は隆々としていました)。

あの時、もしも、彼が剣道を辞めていたら・・・。そんなことを時々思い起こします。